

2025 年 10～12 月 活動記録

天塩町地域おこし協力隊 鷹尾 心

目次

■ 活動記録

1. 天塩川歴史資料館 見学案内
2. 総会・研修会参加
3. 道北地区博物館等連絡協議会巡回展「巳年のへび展」
4. 令和7年度てしお塾
5. 来月以降の活動計画

活動記録

1. 天塩川歴史資料館 見学案内

今年度、天塩川歴史資料館は10月31日まで開館し、4月から10月までの7カ月間で合計1473名のお客様にご来館いただいた。特別展示やイベントをきっかけにご来館いただくお客様も多くいらしかった。

冬季休館期間、調査のためにご来館いただいた学芸員の方々や町内の団体のお客様に資料館のご案内を行った。また、町内の団体のお客様には、見学案内に加え地域おこし協力隊・学芸員としての取り組みをご報告する時間も設けた。地域住民のみなさまに活動内容をご理解いただき、天塩町の町民としての資料館に対するご意見を伺える貴重な機会となった。

実施した見学案内：

- ① 10月22日 留萌振興局・管内市町村職員のみなさま



- ② 11月12～14日 北海道博物館学芸員 尾曲様、吉川様

- ③ 11月14日 はまなす学園大学のみなさま

2. 総会・研修会参加

下記研修・説明会等に参加した。

参加した総会・研修会：

① 令和7年度北海道博物館協会ミュージアム・マネジメント研修会（於：名寄市）

令和7年度北海道博物館協会ミュージアム・マネジメント研修会に参加し、エコミュージアムの取り組みに関する基調講演と事例報告、シンポジウムを聴いた。研修会では地域社会と包括的に博物館活動を行う「エコミュージアム」の概念と、小規模自治体だからこそ発揮できるエコミュージアムの活動の価値について議論された。

追加研修として、なよろ市立天文台にて天体望遠鏡を使った月や土星の観測を体験した。天文台の村上台長によると「2030年6月1日に北海道で観測できる金環日食の際は、観測可能範囲地域で様々な対策を準備する必要があるとのこと。（天塩町は観測可能範囲内）名寄市北国博物館となよろ市立天文台プラネタリウムをそれぞれ案内していただき、見学を行った。

② 北海道博物館協会学芸職員部会 第49回総会・研修会開催（於：苫小牧市）

北海道博物館協会学芸職員部会第49回総会・研修会に参加し、学芸員活動についての学習と部会員との交流を図った。基調講演では公立はこだて未来大学准教授の平野智紀氏に「美術作品を介したコミュニケーション」についてご講演いただいた。また、研修として苫小牧市美術博物館の展示案内を受け、展示の特色や博物館としての取り組みをご教授いただいた。そして、追加研修として、苫小牧市の静川遺跡、トーチカ（戦争遺跡）、勇武津資料館の紹介ツアーに参加し、地域の歴史について学習した。

これまで道北地区や一部の地域の博物館活動について学ぶに留まっていたが、北海道全体の博物館関係者が集まる研修会に参加することで、より広範に情報を収集することができた。天塩川歴史資料館の今後の活動の参考にできる事例や他館と協同して調査できる可能性のあるトピックについての情報を得られたので、来年以降の活動計画に入れていきたい。

③ 埋蔵文化財担当職員研修会「埋蔵文化財発掘調査の現状と文化財デジタルデータの利活用について（Ⅲ）」

埋蔵文化財についての知見を深めるとともに現状を把握するため、埋蔵文化財担当職員研修会に参加し、埋蔵文化財に関する講演を受け、ワークショップに参加した。

研修では、文化庁の桑波田武志文化財調査官に、埋蔵文化財の法的な分類や自治体の役割についてご講演いただいた。また、奈良文化財研究所の高田祐一主任研究員に文化財の3Dモデルを用いたARツールの使い方をご教授いただき、参加者それぞれがAR空間を作成するワークショップに参加した。

3. 道北地区博物館等連絡協議会巡回展「巳年のへび展」

9月17日（水）から10月12日（日）まで、道北地区博物館等連絡協議会巡回展「巳年のへび展」を開催した。名寄市北国博物館の展示を道北地区のミュージアムで巡回し、天塩川歴史資料館では天塩町に伝わるへびの逸話をまとめたパネルを追加して展示した。

会期中の来館者数は167名で、うち町内からのお客様は33名。全体の20%と高い割合を占めていた。（今年度全体では町内のお客様は約8%）町内の方々が「へび展を見に来た」と言ってご来館いただくことが何度もあり、企画展など、普段とは違う取り組みに対する関心の高さを実感した。新聞記事や回覧のチラシ、掲示ポスターを見て知っていただいているようなので、今後もイベントの際は情報発信を広く行いたい。



▲巡回展「巳年のへび展」のチラシ、展示風景

4. 令和7年度てしお塾

天塩町の歴史について講義・討議する町民の方々向けのイベント「てしお塾」を開催した。今年度は天塩町で発掘されたテシオコクジラの化石をテーマに講演とゲーム体験を組み合わせたイベントとして構成し、企画発案から参加した。

今回は天塩小学校4～6年生の授業として開催し、一般の町民の方も見られるという形を取った。そのため、小学生が楽しんで化石発掘の経緯や天塩町の昔の話に興味を持てるように、簡易なゲームを開発し、小学校の先生方や生徒の代表者にプレイしてもらうことにした。講演のパートでは、1996年にテシオコクジラの化石を発掘した木村方一氏（沼田町化石体験館名誉館長）に、当時の発掘風景の写真を投影しながら発掘の経緯やテシオコクジラの化石の重要性について子どもにも分かりやすく解説していただいた。

イベントの最後には、天塩川歴史資料館に展示している化石のレプリカに触れる時間も設け、興

味深そうに化石に触りに来る児童の姿が見られた。テシオコクジラの化石に関してより広く町外などにアピールできる事や、開催できるイベントなどについて、来年度に向けて考えていきたい。



▲ イベントの様子



▲ 化石発掘体験ゲームのイメージ画像

5. 年明け以降の活動計画

資料館 Web サイト制作について、固定ページなどの大枠が完成した。年明けからページ内の具体的なコンテンツを入れていき、年度内には公開できるようにしていくことを目標とする。また、4月末の資料館開館に向けて、資料館内の展示資料をより分かりやすく見ていただけるようなキャプションの追加作業を行う。